

上杉文華館 目録
2022年6月23日（木）～7月26日（火）
関東管領上杉氏④～観応の擾乱

	資料名	員数	法量 (cm)	時代	作者	所蔵
複製	上杉本 <small>うえすぎほん</small> 洛中洛外図屏風 <small>らくちゅうらくがいずびょうぶ</small>	六曲一双	各178.1×383.2	原本	室町～桃山 (16世紀)	狩野永徳 上杉博物館
国宝	上杉家文書 足利直義書状 <small>あしかがただよしじょう</small>	一通	本紙 33.7×50.3 礼紙 33.0×49.8	(建武5年・1338) 7月11日		上杉博物館 文312・257
国宝	上杉家文書 足利直義御教書 <small>あしかがただよし みぎょうしょ</small>	一通	31.5×49.1	観応2年 (1351) 3月13日		上杉博物館 文696
国宝	上杉家文書 足利義詮御内書 <small>あしかがよしあきらごないしょ</small>	一通	33.9×49.5	(康安元年・1361) 9月15日		上杉博物館 文682

2022年度の上杉文華館は「関東管領上杉氏」をテーマに、国宝「上杉家文書」などを展示します。

長尾景虎（上杉謙信）は、永禄4年（1561）閏3月、上杉憲政から山内上杉氏の名跡と関東管領職を譲り受けました。ここに、後に米沢藩主となる上杉氏が成立しました。この関東管領の地位を名分として、謙信は関東に出兵し、同じく関東管領を称した北条氏と抗争を繰り広げました。また、江戸時代には関東管領に上杉家の歴史的アイデンティティを見出していました。この謙信が継いだ上杉氏の歴史を国宝「上杉家文書」からみていきます。

室町幕府は、東国支配のために鎌倉府という地方機関を設置しました。これは、足利尊氏の息子義詮・基氏、そして基氏の子孫に継承された鎌倉公方をトップとして、幕府とほぼ同様の組織を編成し、管下の武士に対して強力な支配を行っていました。その鎌倉府のナンバー2の地位にあって、鎌倉公方を補佐し、政務を統轄する立場にあったのが関東管領でした。初期は上杉氏以外の諸氏も含めた人事がなされましたが、最終的に山内上杉氏が継承、家職と位置付けられていきました。15世紀半ばに鎌倉公方と関東管領の対立によって鎌倉府が崩壊した後も、関東支配の重要な地位にあり続けました。

第4回目は、「観応の擾乱」をテーマとして関連文書を紹介します。室町幕府の内紛である観応の擾乱は、將軍足利尊氏の弟直義と將軍の執事高師直の対立を発端とし、師直死後は兄弟の対立に発展、最後は尊氏が勝利しました。この対立・戦乱において上杉一族は、温度差はあれ、重要な役割を果たしています。その一人であった憲頭は、関東にあって直義派の重鎮として活動します。直義の死後、憲頭は守護はじめとする役職を解任され、10年ほどにわたり反幕府行動を続けていきました。しかし、幕府は憲頭を必要としていました。このような憲頭の動向、立場を紹介していきます。

「国宝上杉本洛中洛外図屏風」（複製）も展示します。1995年制作の複製で、制作当時の状況を想定したものです。